師走のまち 駆け抜けた

一斉にスタートを切るランナー

2025 八幡市民マラソン大会

10km種目で木津川左岸堤防沿いを走る竹澤さん（中央）

北京五輪代表　竹澤さんがサポート

友好都市から市長とPRキャラも参加

12月７日、2025八幡市民マラソン大会が市民スポーツ公園を発着点に開催。市内外から参加した1634人が晴天に恵まれた市内を駆け抜けました。

同大会は、市スポーツ協会や市などで構成された大会実行委員会が主催。ハーフマラソン、10km、３km、２kmのコースを、性別や年齢別の15種目に分け実施されました。また沿道からの応援もランナーの背中を後押しし、大会を盛り上げてくれました。

ゲストランナーとして北京五輪代表で摂南大学陸上競技部ヘッドコーチの竹澤健介さんが３年連続出場し、10km種目をランナーと交流しながら力走をサポート。同大学陸上競技部の皆さんもボランティアとして大会を支えてくれました。

さらに８月に本市と友好都市協定を結んだ愛媛県八幡浜市の大城市長と八幡浜ちゃんぽんＰＲキャラクターの「はまぽん」は大会会長の川田市長と一緒に３kmを完走。ゴール後には喜びを分かち合っていました。

手をつないでゴールする親子

３km種目を完走した大城市長（左から２人目）と川田市長、「はまぽん」

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。

身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

南ケ丘保育園でもちつき体験

杵を振り下ろしてもちをつく園児

「おいしい！」「めっちゃのびる」

12月16日、南ケ丘保育園の３歳児から５歳児37人がもちつきを体験。一足早く正月気分を楽しみました。

この行事は、園児に季節の行事や日本の風習を体験してもらおうと毎年実施されています。

もちつきは、代表して５歳児がつき手に挑戦。「よいしょー、よいしょー」の掛け声に合わせて力強く杵を振り下ろしていました。当日は、小学校の先生や地域支援員も参加。大人の迫力あるもちつきを間近に見た園児から大きな歓声が沸き起こっていました。

つきたてのもちは、先生たちが熱いうちに丸め、きなこや砂糖醤油で味付け。園児は「おいしい！」「めっちゃのびる」と声を弾ませ、出来たての味を楽しんでいました。

ヴーファム・トゥエ・ラムちゃん（６）は、「杵が重かったけど楽しかった。きなこのおもちが甘くておいしかった」と笑顔で話していました。

子育て 親子で楽しんで

ファミリープレイランド2025

12月13・14日、子育て支援センター「あいあいポケット」にて「ファミリープレイランド2025」が開催。２日間で282人が来場し、会場に楽し気な親子連れの歓声が響きました。

同イベントは、様々な玩具に触れ、親子で楽しく遊んでもらうことを目的として、毎年開催されています。

全３カ所のコーナーが設けられた会場で、特に人気だったのは体を動かして遊べる大型遊具のコーナー。巨大トランポリンや大きなブロックを使った組み立て遊び、回転運動を楽しめる大きな筒状のエア遊具「サイバーホイール」など、全身を使って、のびのびと遊びに興じる子どもの姿が見られました。

サイバーホイールを楽しむ子どもたち

参加した内藤睦月（つき）くん（１）の父親は「子どもと一緒に遊べる場所が身近にあると親も嬉しい。これからもいろんなことをさせてあげたい」と話していました。

今月のこの人　「人との巡りあいに感謝」80歳代ランナー

岩佐和子（いわさかずこ）さん

50歳でマラソンを始め、82歳で2025八幡市民マラソン大会の10km種目に出場し完走。フルマラソン完走は130回以上。定年まで看護師として働き、その後はボランティア活動に尽力。市内在住。

「『50歳でホノルルマラソンを走る』と何気なく口にしたら、息子や夫が背中を押してくれた」とマラソンを始めたきっかけを語る岩佐和子さん。

500mを走る練習から徐々に距離を伸ばし、１年後のホノルルマラソンを５時間20分で完走。「お祭りみたいに楽しく、仲間ができ、次の大会へつながり続けている」と語ります。そして、令和７年にはランニングの仲間と明石海峡大橋から大阪市内までの約50kmを走破しました。

「誰かのためになるようなことがしたい」と看護師時代に社会福祉も勉強し、定年後はボランティア活動に尽力されています。

さらに、60歳を機に始めた俳句は毎月20句以上を作ります。「毎日、石清水八幡宮まで歩き四季折々の句材を授かっている。体調や食事には気を付けており、80歳を超えた現在も健康なのはありがたい。マラソンも俳句も良き仲間と指導者に巡りあえたことに感謝」と、笑顔で語ります。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。